

運輸区 第三十三号

2・13千葉駅頭宣伝行動

コロナ禍以降、久しぶりに本格的な駅宣行動が取り組まれ、2月13日（火）18時から参加してきました。当日は、OB



含め、パスさえないJESS組合員も（自腹で）遠方から駆けつけ、私たちの主張をピラ配りと共に訴えました。また、政党代

表者や、支援団体も加わり、16名？が集まりました。

昨年末のダイヤ改「正」提案から各自治体からのクレーム対応で、ぶれまくって



るJR会社ですが、やはりそれ以前からの利用者も労働者も無視した身勝手な振る舞いに当然のごとく鉄槌が降ろされたのは、周知の通りであります。

利用者、特にローカル線の弱者切り捨ての施策は、公共交通としての使命を放棄したもののばかりで「嫌なら乗るな」という態度があからさまに出ています。おそらくこうした不満の声も利用者や、自治体から出ていたはずですが、JR会社はずっと無視してきたのでしょうか。

表向きには、きれいで立派な文言を並べていますが、その裏では窓口の閉鎖、待合室や、トイレ、時計までもが撤去されるという鉄道会社ではあり得ない横暴が続けられています。

また、えきネット等のスマホ対応推進では、使いこなせない人は容赦なく、切り捨てようとしているのが現在のJRです。

マイクを握った加藤委員長からは「私たちは、利用者を顧みないJRの施策に反対の立場で取り組みを進め、誰もが安心して利用出来る鉄道を目指しています。皆さまのご理解とご協力をお願いします」と訴えました。お疲れさまでした。

皆さんの家族、友人等々、JR利用者の生の声を是非お聞かせ下さい。

うたてつ ノススメ22

裏切りの街角（甲斐バンド）1975年6月

② とぎれとぎれに靴音が
駅の階段に 響いてる
楽しく過ぎていく人ごみ
切符を握った君がいた

わかったよ 何処でも行けばいい
俺らをふり切って 汽車の中
思わず叩く ガラス窓
君はふるえ 顔をそむけた

しとしと五月雨 またひとつ
ネオンが夜にとけてく
頼りない心 傷つけて
裏切りの街角 過ぎて来た

しとしと五月雨 プラットホームを
今 思い出が走り出す
発車のベル 叫び声中
あの人が 見えなくなった
発車のベル 叫び声中
あの人が 見えなくなった
あの人が 見えなくなった

2枚目のシングル。歌詞は②番以降を掲載。作詞作曲共、リーダーでポーカーの甲斐よしひろ。

高校時代から社会人になっての数年間、日本のバンドで一番影響を受けたのが、この人たちだった。詞、曲、歌唱、演奏と全てがガラスのようにはかなく、美しく、尚且つ危険というたまらない魅力を持っていた。特に詞に関しては「ナイフのような言葉」で、独特の表現がなされ、当時の自分の胸に容赦なく突き刺さったのを覚えている。さだまさしとはまた別の切り口で、日本の歌世界を作り上げたと思う。

本当は①番も乗せたかったが、ドラマチックな展開はまるで映画のシーンのよう。自分の貧弱な解説など全く必要もない。これ以上、プラスもマイナスもいらぬ完璧な詞。サビに共通するのが「しとしと五月雨」で3回出て来るフレーズも強烈な印象を残す。

「君」と「あの人」の使い分けは、単に字数の関係か、もっと深い意図があるのか？

気だるいリズムともの悲しいギターも最高。鉄道ソング名曲中の名曲。